

ダイワ米国バンクロン・ファンド(為替ヘッジあり)2014-07 設定来の運用状況と今後の見通しについて

2015年10月14日

平素は、「ダイワ米国バンクロン・ファンド(為替ヘッジあり)2014-07」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。
当ファンドの設定来の運用状況と今後の見通しについて、お知らせいたします。

《基準価額・純資産の推移》

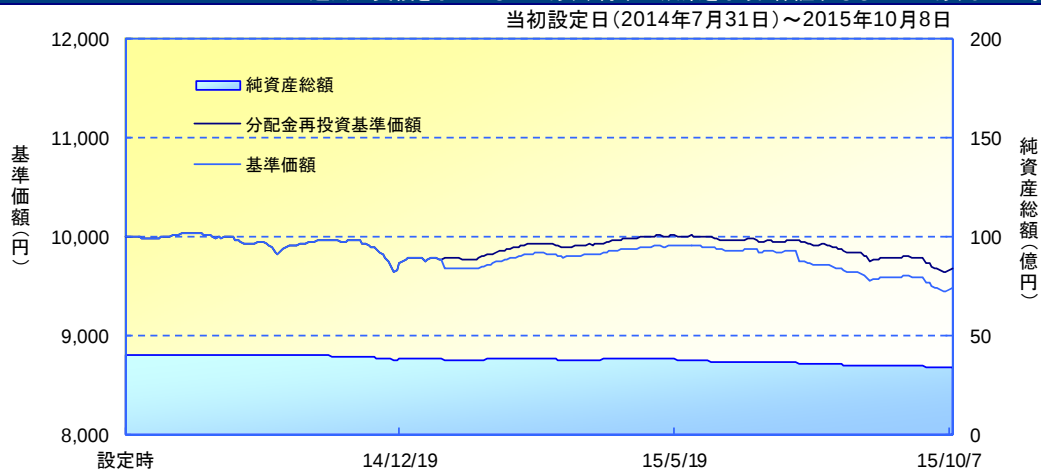
※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

2015年10月8日現在

基準価額	9,475 円
純資産総額	33億円

期間別騰落率

期間	ファンド
1カ月間	-1.1 %
3カ月間	-2.7 %
6カ月間	-2.6 %
1年間	-2.7 %
3年間	-----
5年間	-----
年初来	-1.0 %
設定来	-3.3 %



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日までとし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

《分配の推移》

(1万口当たり、税引前)

決算期(年/月)	分配金
第1期 (15/01)	100円
第2期 (15/07)	100円

分配金合計額 設定来: 200円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

※以下のコメントは、J.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インクが提供するコメントを基に大和投資信託が作成したものです。

【設定来の運用状況】

当ファンドの設定日(2014年7月31日)以降、香港や中東の地政学リスクへの警戒感が高まったほか、エボラ出血熱に関する報道や世界景気への懸念により株式市場が急落するなど、市場のリスク回避姿勢が強まり、当ファンドの基準価額についても軟調な推移が続きました。

昨年12月に入ると、世界経済の成長減速に対する懸念の台頭や原油価格の下落など商品市況の低迷を受けて、エネルギーセクターや金属/鉱物セクターが主導する形で市場はリスク回避の動きに振れました。特にバンクローンと比較して、ハイ・イールド債券の価格下落が大きくなりました。投資信託など個人の資金の流出が拡大したことによる需給の悪化も下落の要因となりました。当ファンドにつきましても、エネルギーセクターや金属/鉱物セクターの銘柄を保有していたこともあり、基準価額の下落幅が拡大しました。

当ファンドで保有するハイ・イールド債は流動性確保などの観点からボトムアップで銘柄を選定していましたが、結果として同セクターの比率が高まっていたほか、資産規模の制約から、銘柄分散が十分にできていなかったことがパフォーマンスの悪化につながりました。なお、パフォーマンスの悪化を受けて2015年1月に同セクターの組入比率を引き下げました。

2015年2月以降は、好調な米国雇用統計や原油価格の下げ止まり感から市場はリスク選好局面となり、当ファンドの基準価額は上昇基調に転じました。バンクロンの新規発行ペースが前年比で下回って推移している一方で、CLO(ローン担保証券)の組成が前年を上回るペースで続いたことなど良好な需給環境も相場の下支え要因となりました。

しかし、6月以降はギリシャ支援協議の先行き不透明感や米国の早期利上げ観測の高まり、8月には中国の人民元切り下げなどから同国の景気の先行きに対する懸念が浮上したこと、さらに9月後半には独自自動車大手の排ガス不正問題などクレジット市場のセンチメントを悪化させる出来事が続きました。このような状況下、足元までファンドの基準価額は当初元本を下回って推移しています。

セクターごとの特徴としましては、上述のエネルギーセクターや金属/鉱物セクター以外に、小売セクターの保有銘柄が想定より業績がよくなかったことなども、ファンドパフォーマンスの悪化要因となりました。一方で、公益やメディア/電気通信、食品および医薬品、ゲーム、ヘルスケアのセクターにおいて銘柄選択が機能し、パフォーマンス向上に寄与しました。

※以下のコメントは、J.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インクが提供するコメントを基に大和投資信託が作成したものです。

【今後の見通し】

足元ではバンクローン市場およびハイ・イールド債券市場は依然としてリスク回避的な展開が続いております。これまで商品市況の悪化を受けて、エネルギーセクターや金属/鉱物セクターが軟調な市場環境を主導してきましたが、足元ではこれら以外の幅広いセクターにも波及している格好です。特に9月はメディア/電気通信セクターで、大型M&Aや主要企業の格下げなどネガティブな材料が相次いだこともセンチメントの悪化材料となりました。

当面は米国の利上げに対する思惑や商品市況、中国の景気動向などを材料に市場のボラティリティが高い状態が続くとみられます。しかし、当ファンドの投資対象とする主にBB格以下の企業については、良好な金融環境を背景に短期債務の借り換えが進み、財務の柔軟性は向上していること、業績も総じて悪くないなどから、ファンダメンタルズは良好な状態を維持するものとみております。

【運用方針】

低クレジット銘柄の発行額や財務レバレッジは依然として健全であり、当ファンドのポートフォリオにおきましても、バンクローン指数対比でBB格をアンダーウエート、B格をオーバーウエート、CCC格以下はアンダーウエートとしています。また、米国の緩やかな景気回復を前提とすると、サービス、食品及び医薬品、メディア/電気通信、輸送関連などの内需関連のセクターに注目しているほか、向こう12カ月のデフォルト率はエネルギーセクターや金属/鉱物セクターで上昇が予想されるものの、それ以外のセクターでは引き続き低位で推移するとみています。

バンクローンについては、担保付であることの優位性や金利上昇局面で選好されやすいことなども、当ファンドのパフォーマンスをサポートするものと考えられます。

今後もモニタリングを通じて、格上げを見込めるファンダメンタルズが改善基調にある銘柄やリスク対比で魅力的な銘柄の選定を行ってまいります。また、クレジットの劣化には迅速に対応することで最終的な運用パフォーマンスを良好なものとするよう最善を尽くしております。

運用パフォーマンスの悪化により、投資家の皆様には多大なるご心配をお掛けしており、お詫び申し上げます。今後もリターン向上のために最善を尽くしてまいりますので、皆様のご理解を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

《シニア・セキュアード・ローン・ファンド JPYクラスの資産構成》※比率は、純資産総額に対するものです。

※下記データは、8月末基準の基準価額への反映を考慮した、現地前営業日のデータに基づきます。
※下記データは、J.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インクの提供するデータを基に大和投資信託が作成したものです。

資産別構成			ポートフォリオ特性値				業種別構成		合計91.0%
資産	銘柄数	比率	バンクローン	社債	全体		業種名	比率	
バンクローン	139	80.1%	直接利回り(%)	4.8	9.1	5.3	メディア/電気通信	16.0%	
社債	31	10.9%	最終利回り(%)	5.5	11.5	6.2	ヘルスケア	10.6%	
現金等		9.0%	想定デュレーション*	0.11	3.28	0.49	情報技術	7.2%	
合計	170	100.0%	*バンクローンのデュレーションは、次の金利改定時までの日数を年換算した値です。社債は修正デュレーションの値です。全体はバンクローンの金利改定時までの日数を年換算した値と社債の修正デュレーションの値を加重平均した値です。				小売	7.1%	
			※ポートフォリオ特性値はバンクローンおよび債券ポートフォリオに対する値です。為替ヘッジに伴うコスト等を考慮した値ではありません。				サービス	5.9%	
通貨別構成(為替ヘッジ前)			格付別構成						
通貨		比率	格付別		比率				
米ドル		100.0%	BBB		2.2%		ゲーム/レジャー	5.7%	
			BB		36.7%		食品及び医薬品	5.1%	
			B		49.3%		輸送	5.1%	
			CCC以下		2.1%		エネルギー	4.2%	
			無格付		0.8%		食品/タバコ	4.0%	
			※格付別構成はMoody's、S&Pの格付けの高い方を採用し、算出しています。				製造	3.9%	
							住宅	3.4%	
							金融	2.7%	
							公共事業	2.1%	
							航空宇宙	2.1%	
							化学	2.0%	
							金属/鉱物	1.9%	
							林産品/容器	1.3%	
							耐久消費財	0.7%	
							非耐久消費財	-----	

組入上位10銘柄							合計19.4%
銘柄名	資産	通貨	利率(%)	償還日	業種名	比率	
UNIVISION	バンクローン	米ドル	4.00	2020/3/1	メディア/電気通信	2.6%	
NEW ALBERTSONS INC	バンクローン	米ドル	4.75	2021/6/27	食品及び医薬品	2.3%	
FIRST DATA CORP.	バンクローン	米ドル	4.20	2021/3/24	サービス	2.3%	
AVAYA INC	バンクローン	米ドル	6.25	2020/4/30	情報技術	2.1%	
ALTICE FINANCING	バンクローン	米ドル	5.50	2019/7/2	メディア/電気通信	1.8%	
TRIBUNE MEDIA CO	バンクローン	米ドル	3.75	2020/12/27	メディア/電気通信	1.8%	
RITE AID CORP	バンクローン	米ドル	4.88	2021/6/21	食品及び医薬品	1.7%	
INTRAWEST CORP.	バンクローン	米ドル	4.75	2020/12/9	メディア/電気通信	1.6%	
CHRYSLER GROUP LLC	バンクローン	米ドル	3.50	2017/5/24	輸送	1.6%	
FORMULA ONE GROUP	バンクローン	米ドル	4.75	2021/7/30	メディア/電気通信	1.6%	

※利率の値は、小数第3位を四捨五入して表示しています。
※業種別構成および組入上位10銘柄の業種名は、J.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インクの判断に基づき分類したものです。

以上

ダイワ米国バンクローン・ファンド(為替ヘッジあり)2014-07

ご購入の申し込みはできません。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

外国投資信託を通じて米ドル建てのバンクローン等に投資することにより、安定的なインカム収益の確保と信託財産の着実な成長をめざします。

ファンドの特色

1. 主として、米ドル建ての担保付バンクローンに実質的に投資します。

◆バンクローンとは

銀行などの金融機関が、主に格付けが投資適格未満（BB 格相当以下）の事業会社等に対して行なう貸付債権をいいます。

◆バンクローンの特徴

相対的に信用度の低い企業に対する貸付債権であるため、投資適格債券（BBB 格相当以上の債券）などと比較して相対的に高い利回りとなっています。

担保付が一般的であるため、無担保の社債などと比較して債務の弁済順位が高くなっています。

変動金利が一般的であり、市場金利の変動による価格の動きは相対的に小さくなります。

取得時において、BB 格相当以下の格付けのバンクローン*に主として投資します。

*無担保のバンクローンにも投資する場合があります。

- ・米ドル建てのハイ・イールド債券（BB 格相当以下の債券）等にも投資する場合があります。

- ・格付けの判定はムーディーズおよび S&P の格付けを参照します。

※二つの格付会社で格付けが異なる場合は、高い方の格付けを採用します。

- ・無格付けのバンクローンおよび債券にも投資を行なう場合があります。

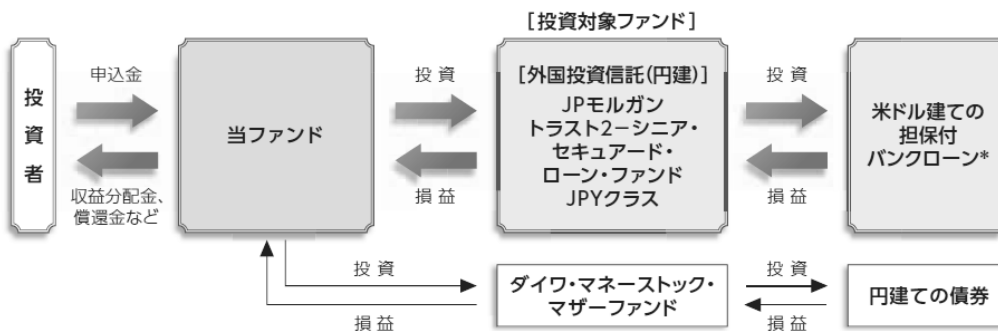
※その場合、投資対象とする外国投資信託の投資顧問会社が BB 格相当以下の格付けであると判断したものに限りです。

2. 為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いません。

※為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

3. 当ファンドは、以下の 2 本の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。

外国投資信託の受益証券を通じて、米ドル建てのバンクローン等に投資します。



*無担保のバンクローン、米ドル建てのハイ・イールド債券等にも投資する場合があります。

当ファンドは、通常の状態、投資対象とする外国投資信託への投資割合を高位に維持することを基本とします。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

ダイワ米国バンクロン・ファンド(為替ヘッジあり)2014-07

ご購入の申し込みはできません。

投資リスク

●当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて値動きのある資産に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「価格変動リスク・信用リスク（バンクロンの価格変動、公社債の価格変動）」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
購入時手数料	ご購入の申し込みはできません。	
信託財産留保額	ありません。	
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
運用管理費用 （信託報酬）	毎日、信託財産の純資産総額に対して年率 1.161%（税抜 1.075%） ※運用管理費用は、毎計算期末、途中換金および信託終了のときに信託財産中から支弁します。	
投資対象とする投資信託証券	年率 0.63%程度	
実質的に負担する運用管理費用	年率 1.791%（税込）程度（純資産総額によっては上回る場合があります。）	
その他の費用・ 手数料	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、 資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。 ※「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上 限額等を示すことができません。	

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

販売会社:

大和証券
Daiwa Securities

商号等 大和証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号
加入協会 日本証券業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用:

大和投資信託
Daiwa Asset Management

商号等 大和証券投資信託委託株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会